1年次教科「産業」の新たな取り組み

平成15年度　「産業社会と人間・産業理解」部会
青木猛正（代表）・阪本康之・岡　聖美・深澤孝之
建元喜寿・川上有正・加藤敦子・杉村祐美子・大森俊彦

本校は，平成12年度～14年度　文部省研究開発学校の指定を受け，総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」および新科目「産業理解」によって，新教科「産業」を構成させた。昨年度までの試行を受けて，今年度より実施された系列改編を機に，教科「産業」として一体的に指導を行っている。高等学校教育におけるキャリア教育を推進し，［生きる力］の具現化を図る試みとして，１年次の教科「産業」の全体構造やその実態をまとめる。

キーワード　産業社会と人間　産業理解　生きる力　キャリア教育　教科「産業」

1　経緯

平成５年２月「高等学校教育の改革の推進に関する会議」より，「高等学校教育の改革の推進について（第四次報告）－総合学科について(報告)－」が発表された。この中では，総合学科設置の趣旨や役割とともに，総合学科の原則履修科目として，「産業社会と人間」「情報に関する基礎的科目」および「課題研究」の３科目を提唱していた。

平成６年度，総合学科第一期校として，本校は原則履修科目の開発に着手し，本校の指導計画や取り組みは，全国の総合学科の標準的な展開として定着してきたと言える。詳細については，平成13年に学事出版より刊行された，『「総合学科」を創る－生き生きと伸び伸びと学ぶ喜びを－』（筑波大学附属坂戸高等学校編）を参照していただきたい。

平成11年に告示された「高等学校学習指導要領」では，総合学科原則履修科目のうち，「情報に関する基礎的科目」が，教科「情報」の開設に発展した。また「課題研究」は，「自ら課題を設定し，その課題の解決を図る学習を通じて，問題解決能力や自発的，創造的な学習態度を育てる（上記「第四次報告」の「課題研究の目標」より）」学習の成果が「総合的な学習の時間」の開設に至ったと言える。総合学科の原則履修科目としては「産業社会と人間」のみが残されている。

学習指導要領では「産業社会と人間」の指導事項として，

ア　社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観・職業観の育成

イ　我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察

ウ　自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成

の３点について「配慮する」ことと示されている。しかし，「産業社会と人間」の指導内容が多くなるにしたがってじっくり取り組む時間が少なくなり，本来の趣旨が失われて，生徒の自己形成が十分になし得なくなる傾向があった。その結果，「産業社会と人間」の力点は上記のウに置かざるを得ない実態がある。

そこで本校では，新教科「産業」の開発と「産業」をコアとした教育課程の編成を課題にした，平成12～14年度文部科学省研究開発学校の指定を受けた。新教科「産業」は，「産業社会と人間」および新科目「産業理解」，さらに現在２年次の科目として開発を行っている「起業基礎」の３科目で構成され，12～14年度の研究開発においては「産業理解」を完成させるに至った。

これは，「産業社会と人間」を様々な体験を通して自己理解・自己認識・自己形成の，上記ウに特化した内容に再編成し，新科目「産業理解」は現代の産業社会のしくみや課題等の学習をもとに，社会構造の理解や社会認識，社会生活における自己の位置づけ等，上記のイを中心にした構成で開発した科目である。

本校では平成13・14年度の試行を受けて，現在１年次の学校指定必履修科目として「産業社会と人間」「産業理解」を各２単位で開設している。

以下本稿において教科「産業」とは，本来総合学科の原則履修科目である「産業社会と人間」と，本校の開発科目である「産業理解」を含めたものとして表現する。

2　系列改編を受けて

本校は，総合学科９年の経験を踏まえて，平成15年度より系列の改革を行った。

(1) 新旧系列

平成14年度入学生までは,「生物資源系列」「エコロジー系列」「機械技術系列」「メカトロニクス系列」「食物栄養系列」「アパレル系列」「国政流通系列」「ビジネス系列」の８系列であった。これらは,既存の専門教科である「農業」「工業」「家庭」「商業」に依拠した系列であった。

しかし，総合学科のめざす教育は従来の教科カリキュラムではなく，生徒や学校，地域の実態に応じた現代的な課題に基づくものである必要がある。そのためには，「教科」の枠組みによる系列を設けるのではなく，現代的な課題の解決のために，複数の教科が横断的に系列を構成させることが望まれる。実際，本校の生徒はⅠ類（農業系：「生物資源系列」「エコロジー系列」），Ⅱ類（工業系：「機械技術系列」「メカトロニクス系列」），Ⅲ類（家庭系：「食物栄養系列」「アパレル系列」),Ⅳ類（商業系：「国政流通系列」「ビジネス系列」)との呼び名が一般的であった。

そこで，系列改革によって，本校の系列は「生物資源・環境系列」「工学システム・情報科学系列」「生活・人間科学系列」「人文社会・コミュニケーション系列」に集約した。また，複数の教科構成員による「系列運営委員会」を設置することとし，これによって既存教科の枠組みを打破した系列の運営を可能にすることをめざしている。

例えば，旧系列では「商業」に関する系列が設置されていたが，新しい系列では，すべてにおいて「商取引」が関わるとの観点から，すべての系列で商業教育が必要とされ，その位置づけも変わってきた。

(2) 系列改編の趣旨

系列改編を行った趣旨は，下記に大別できる。

①附属学校としての役割

国立大学法人化を直前にして，附属学校としての役割を高める必要がある。新しい系列名は，筑波大学の学類・学系・研究科に直結できるものとし，大学の研究支援要請に応える体制を作ることとした。

同時に，教育実習校としての役割を担うためにも，新教科「情報」と「福祉」の導入を推進した。

②研究開発の成果

平成12～14年度研究開発において，本校は「産業をコアとした育課程の編成」の開発を行った。これは，新しい教科「産業」の開設と共に，従来の教科・科目の中にも「産業」をコンセプトにした総合的な科目の開設をめざしている。その意味において，教科の枠を超えた系列の改編と系列運営委員会を開設することにより，総合的な教育課程の編成を行うに至った。

③生徒の進学方法の多様化

本校は50余年の歴史から，職業教育を基本理念とする総合学科としてきた。しかし，総合学科改革以降，大学進学者が年々増加している。その中で，総合学科で学んだ新たな「知の総合化」の結果による推薦入試やＡＯ入試の成果は目を見張るものがある。

④本校のあるべき姿

系列改革に伴う,中学生へのキャッチフレーズは「私たちは新しい進学のあり方を提案します」「大学で何を学ぶかを学ぶ進学校」である。このことは，いわゆる「受験学力」の指導が中心の総合学科をめざすのではなく，総合学科で学んだ成果である主体的な学習態度や知の総合化に基づいた進学を進めることである。いわば，総合学科の成果の再確認である。

(3) 系列改編に伴うシステムの変更

系列改編に伴って，総合学科改編以来本稿が撮っていた学校運営システムも変更を行った。

①２学期制から３学期制への変更

本校は，平成６年度より２学期制をとってきたが，15年度より３学期制に変更した。この理由は，第１に夏季休業が不可欠である日本の気候風土に２学期制は学習の継続の面からも馴染まない。第２に，半期科目はかえって生徒の選択の幅を狭めることとなり２学期制のメリットがない。第３に，高体連や高文連の行事は３学期制に合わせてあり前期中間考査時に公式戦等がある。

ただし，本校は筑波大学と同様に，１学期を４月～８月，２学期を９月～11月，３学期を12月～３月としている。この形態にすると，各学期の授業日数がほぼ均等になる。また，教育実習校である本校は，今年度から３週間実習になり，筑波大学との日程調整が容易になる。

②45分，７時間授業

本校の選択科目は，すべて２時間続きである。したがって,45＋10＋45分で,通年２単位の認定を行う（研究開発に伴う特例も活用）こととした。さらに，水曜日を５時間，他の曜日を７時間として，火曜日・金曜日を１年次は基礎学力向上の時間，２年次は進路研究の時間，３年次は卒業研究のための補足の時間としている。

③校務分掌の活性化

とかく，総合学科は忙しいとのイメージが定着して

いる．その一端として，各種委員会の乱立による組織の肥大化がある．系列改革を機に組織をスリム化して，校務分掌内における係の活動を活性化させることにより，多人数による会議の縮減を行っている．

(4) システム変更の伴う１年次の展開

従来は，「産業社会と人間」を前期集中で実施していた．しかし，本来の趣旨からすれば「産業社会と人間」は通年で実施すべき科目であり，特に重要な指導内容である「履修計画の作成」が前期集中では，夏休みを挟む時期となり，十分な検討の機会が持つことができない．

３学期制に移行することによって「産業社会と人間」も通年科目となった．これにより，「履修計画の作成」が冬休みを挟んだ時期になり，様々な体験をもとに十分に考える場を与えることができるようになった．

3　教科「産業」の展開

(1) 基本的なコンセプト

教科「産業」については,「生きること」「働くこと」を基本コンセプトにして，各科目を構成している．その中で，「産業社会と人間」は「働くことを考えよう」をコンセプトに,「自己の個性や特性の探求」「他人との関わりの中で自己の認識」「将来への夢や希望の探求」が中心課題であり，「産業理解」は「働くことを知ろう」をコンセプトに，「産業の基本的しくみの理解」「社会の基本的しくみの理解」および「仕事をすることの探求」を主課題にしている．

昨年度の「第６回　総合学科研究大会」は，「文部科学省研究開発学校研究成果報告会」と位置づけ，「新教科『産業』と産業をコアとした教育課程の開発」を研究主題に，学校教育関係者ばかりではなく，産業界からも参加を得て実施した．大会では，研究概要の報告，「現代の産業と学校教育の課題」をテーマとしたシンポジウム，「産業界から高校教育に望むこと」を演題とした講演が行われた．

この「シンポジウム」で　お茶の水女子大学　耳塚寛明は「職業選択はＰ（可能性）×Ｖ（価値）で決まる．生徒個人の夢や希望の「Ｖ」の部分が強くても，実際に職業としての可能性（Ｐ）がなければ，Ｖ×Ｐ＝０となり，職業選択は不可能となる」との発言があった．

この発言を本校の取り組みにあてはめると，「産業社会と人間」は生徒の生き方・在り方を学ぶものであり，様々な体験を通じてライフプランを作成し，将来の夢を考え，そのための履修計画を立てることが学習の目標となっている．このことは，耳塚の言う「Ｖ（価値）」の指導であると位置づけられる．

それに対し，「産業理解」は社会の基本的な理解を目指すものであり，現代の産業構造や産業社会の諸課題を体験的に学ぶことが目標となっている．これは，まさしく「Ｐ（可能性）」の追求と位置づけられる．

すなわち，「産業社会と人間」と「産業理解」が一体となることで，生徒の進路選択に資することができるとともに，キャリア形成がなされることになる．また，２年次以降の履修計画がより現実的なものとすることができる．そのために，時間的に「産業社会と人間」と「産業理解」を区別するのでなく，木曜日の午後を教科「産業」の時間とし，指導計画段階で両者を一体的なものとした．

したがって，本校の教育課程においては，１年次の２科目が基盤となり，その上に総合学科の特性を生かした生徒個々の時間割が構成されることになる．

(2) 目標

①教科「産業」の目標

産業に関する基礎的・基本的な理解や関心を高めさせ，産業と人間のかかわりや，社会生活において産業が果たしている役割について広い視野を持って理解させる．さらに，自らの体験を通して，さまざまな問題に対処する力や，新たに創造する力を育てることにより，望ましい勤労観や職業観を育成する．

②「産業社会と人間」の目標

産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ，社会に積極的に寄与し，生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに，体験的な学習や調査・研究などを通じて，自己の将来の生き方や進路についての考察を深めるとともに，主体的に各教科・科目を選択する態度を育てる．

③「産業理解」の目標

産業と社会のかかわりや産業にしくみについて，基礎的・基本的な知識や情報を調査・体験を通して学び，各分野への興味関心を高め，産業の意義や使命を理解させるとともに，産業の発展を図る意欲的な態度と能力を育てる．

(3) 担当者

昨年度まで「産業社会と人間」は前期科目として位置づけられていた．科目担当者は農業科・工業科・家庭科・商業科の各専門教科から各１名，普通教科から５名の

９名構成であった。これは，「産業社会と人間」を学習したのち，後期に「基礎実習科目（系列基礎科目）」の選択があり，「産業社会と人間」の展開で体験実習を行うため，系列に関連する専門教科が必要となっていた。

「産業理解」は科目開発を行っていたこともあって，各指導項目ごとに指導計画・指導案及び実際の指導を行うチームを構成して，単元ごとに異なる担当者で授業を行った。これは，新たな指導内容を構築するために，関連する分野や指導事項に造詣の深い先生の支援が不可欠なもとのなっていたためでもある。

しかし，今年度より３学期制に改編し「産業社会と人間」を通年科目として自己の生き方をじっくり学ぶことができるようになった。また，「産業理解」も内容が固まった。そのため，教科を限定するなどの必要もなくなり，むしろ年次会運営とのつながり（特別活動や「総合的な学習の時間」との関連等）の強化が必要となった。

したがって，今年度より１年次正担任４名と，正担任以外４名＋統括者１名の計９名体制で，「産業社会と人間」と「産業理解」を一体的に指導することとなった。

平成15年度担当者は次の通りである。（クラス担当者の前者が正担任である）

１年Ａ組　阪本（数学）・川上（外国語）
１年Ｂ組　岡（理科）・加藤（外国語）
１年Ｃ組　深澤（工業）・杉村（保健体育）
１年Ｄ組　建元（農業）・大森（国語）
統括者　青木（数学）

実際の授業においては，２科目の違いを表現するため「産業社会と人間」はおもに前者の正担任が中心に担当し，「産業理解」を後者がおもに担当する体制とした。統括者は，各クラスのフォーロー，渉外関係，及び「産業理解」の指導案の作成を担当した。なお「産業理解」では昨年度までの開発との関連から，各項目ごとに「産業理解支援者」を置き，指導内容の検討や指導案の作成の支援を行った。

(4)　「産業社会と人間」の指導内容の改訂

「産業社会と人間」で，昨年度まで実施していた内容と今年度からの内容の大きな変更点は下記である。

①教科書として『産業社会と人間－よりよき高校生活のために－』（服部次郎編著・学事出版）を使用した
②時間割作成を従来の９月から３学期（12月）に変更した
③職場体験実習を夏季休業中とし，事業所の指定した日とした
④体験実習を廃止した
⑤各取り組みにおいて，振り返りを強化した

4　「産業社会と人間」と「産業理解」の授業内容

平成15年度の教科「産業」（「産業社会と人間」と「産業理解」）の授業は，時間割内３時間と長期休業中の活動を含めて，各２単位を認定する。

(1)　教科「産業」の年間計画等

資料の表１に「産業社会と人間」の年間指導計画が，表２に「産業理解」の年間指導計画が，表３に「産業社会と人間」と「産業理解」の１年間の指導内容が記載されている。

(2)　教科「産業」の指導内容

教科「産業」は，下記の手順で内容の検討し，指導を行っている。

①「産業社会と人間」
1) 各項目ごとに担当者をおき，指導案と指導内容についての詳細を提案する
2) 「産社・産理部会」で内容の検討を行い，必要に応じて修正する
3) 指導案に基づいて，主たる担当者（１年次担任）が指導する
4) 項目によっては，担当者の変更・クラスの分割・合併等を行う

②「産業理解」
1) 項目ごとに支援者をおき，支援者と統括者が指導内容について検討する
2) 統括者が指導案と指導マニュアル，「産業理解ノート」を作成し提案する
3) 「産社・産理部会」で内容の検討を行い，必要に応じて修正する
4) 指導案に基づいて，主たる担当者（１年次担任以外）が指導する
5) 項目によっては，担当者の変更・クラスの分割・合併等を行う

5　評価

教科「産業」の評価は，下記の要領で行っている。

(1)　「産業社会と人間」

①教科書（ワークシート形式になっている）への記載事項をもとに担当者がＡＢＣ段階で評価
②提出物や制作物を担当者がＡＢＣ段階で評価

③授業の取り組み状況を担当者がＡＢＣ段階で評価
④上記の評価をもとに，各担当で５段階の数値評価
⑤各クラスの評価結果をもとに調整を行う

(2) 「産業理解」
①「産業理解ノート」のテーマ別（各項目で平均６テーマ）の記載事項や取り組み状況等を総合して担当者がＡＢＣ段階で評価
②ＡＢＣを数値化する
③上記の評価をもとに，統括者が共通基準で５段階の数値評価
④各クラスの評価結果をもとに調整を行う

6　教科「産業」に関するアンケート

12月の最後の授業時間中に，教科「産業」（「産業社会と人間」「産業理解」）の学びの状況や生徒の変容に関するアンケート調査を行った。

Ⅰ「産業社会と人間」の授業を通して感じたこと

1　自分をしっかりと見つめ直すことができた
思う・やや思う：51.1％　思わない：17.5％
わからない　：31.5％
「思う」と回答した生徒の主な記述意見
・自分のことを考える機会がたくさんあるから
・自分の長所や短所が理解できた　等

2　新たな自分を発見することができた
思う・やや思う：36.4％　思わない：39.2％
わからない　：23.8％
「思う」と回答した生徒の主な記述意見
・他の人の意見をいろいろ聞けたから
・自分のやりたいことが見つけられたから　等

3　自分以外の多くの人と助け合いながら生きていくことの意味を知ることができた
思う・やや思う：65.0％　思わない：14.7％
わからない　：20.3％
「思う」と回答した生徒の主な記述意見
・世界と関わることが必要だと思った　・自分では思いつかないアイデアを知ることが必要　等

4　クラス菜園作りを通して，生産することの苦労や大切さを知ることができた
思う・やや思う：92.3％　思わない：2.1％
わからない　：5.6％
「思う」と回答した生徒の主な記述意見
・自分の手で作り大切さを知ることができた
・育てることは大変だと感じた　等

5　福祉体験を通して，積極的に関わることができるようになった
思う・やや思う：51.1％　思わない：21.0％
わからない　：27.3％
「思う」と回答した生徒の主な記述意見
・いろいろな話を聞けて，前向きに関われるようになった　・助け合いが必要だと感じた　等

6　社会人講話や職場体験を通して，働くことの大切さを知り，働くことへの意欲がわいてきた
思う・やや思う：69.9％　思わない：10.5％
わからない　：19.6％
「思う」と回答した生徒の主な記述意見
・お金のためだけではなく，社会の役に立つために働いていることが理解できた　等

7　筑波大学訪問を通して大学というものが身近なものになった
思う・やや思う：58.0％　思わない：21.3％
わからない　：14.0％
「思う」と回答した生徒の主な記述意見
・自分の考えていることがよりリアルになった
・大学に対する親近感がアップした　等

8　自分の将来に対する希望の実現のために，自分だけの最良の時間割を作ることができた
思う・やや思う：72.0％　思わない：8.4％
わからない　：19.6％
「思う」と回答した生徒の主な記述意見
・将来のために大事な選択だったと思う
・後悔はしていない　等

「産業社会と人間」では，様々な取り組みにおいて自己を見つめ，自己理解を深めることが大きな目的となっている。その意味において，「新たな自分を発見することができた」の設問に対して，肯定的な回答が少なかったのは大きな反省点である。その反面，「クラス菜園つくり」や「職場体験」等具体的な活動に対する肯定意見が多いのは，学習活動が明確であることによると思われる。「自己の認識」のような抽象的なことがらに対する回答のしにくさが要因と考えられる。

今後は学習経過において，生徒が具体的に認識できるような取り組みや問いかけが必要になる。

なお，「最良の時間割ができた」生徒が多かったことは，総合学科における「産業社会と人間」の役割を果たすことができたと言える。

Ⅱ「産業理解」の授業を通して感じたこと

1　人とうまく協調して作業ができるようになった

思う・やや思う：59.4%　思わない：18.2%

わからない　　：22.4%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・以前よりも相手を見て行動できるようになった

・調査発表で多くの人と関わったから　　等

2　他人の意見に耳を傾けるようになった

思う・やや思う：74.8%　思わない：11.9%

わからない　　：13.3%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・自分の意見だけでは分からないことがある

・人の意見を聞く大切さが分かった　　等

3　主体的に作業に取り組むようになった

思う・やや思う：44.1%　思わない：19.6%

わからない　　：36.4%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・作業が楽しく感じられた

・自分から意見を言えるようになった　　等

4　自分の持っている知識を他人とじょうずに共有できるようになった

思う・やや思う：43.4%　思わない：17.5%

わからない　　：39.2%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・話し合うことで共有できるようになった

・言いたいことを伝えられるようになった　　等

5　ものごとに問題意識を持って取り組むようになった

思う・やや思う：37.8%　思わない：21.0%

わからない　　：41.3%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・いろいろなことに興味を持てるようになった

・因果関係を考えるようになった　　等

6　教科で学んだことをうまく組み合わせて考えることができるようになった

思う・やや思う：32.9%　思わない：26.6%

わからない　　：40.6%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・「知っていること」と「知っていること」を加えて「新しい考え」ができるようになった　等

7　自分の人生設計に前向きに取り組むようになった

思う・やや思う：71.3%　思わない：12.6%

わからない　　：16.1%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・いろいろな講義を聴いていろいろ考えるようになった　・将来を大事にしたいと思った　　等

8　自分の意見をじょうずにプレゼンテーションできるようになった

思う・やや思う：31.5%　思わない：37.1%

わからない　　：31.5%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・思っていることを言えるようになった

・まとめることが以前より得意になった　　等

9　新聞やニュースなどを見るなど社会の中でのできごとに関心をはらうようになった

思う・やや思う：54.6%　思わない：24.5%

わからない　　：21.0%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・新聞を読むといろいろなことが分かる

・最近ニュースを見て考えるようになった　　等

10　社会にどのような職業があるか知識が増え，関心が高まった

思う・やや思う：64.3%　思わない：13.3%

わからない　　：21.7%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・いろいろな仕事を学んで，おもしろさややりがいを知ることができた　　等

「産業理解」では，生徒が社会に対する関心を深めることが大きな目的となっている。その点において，「自分の人生設計に前向きに取り組むようになった」や「社会にどのような職業があるか知識が増え，関心が高まった」，「社会の中でのできごとに関心をはらうようになった」などに設問に肯定意見が多かったことは，評価できると思う。

課題としては，他の生徒との意見の共有や，他の教科・科目との関連を意識した指導が必要になる。

Ⅲ 木曜日の午後の授業を通して感じたこと

1　「産業社会と人間」と「産業理解」の授業の区別が自分の中ではちゃんとできている

思う・やや思う：23.1%　思わない：39.2%

わからない　　：36.4%

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・授業をやるうちに区別ができるようになった

・内容が違うことが分かった　　等

2　木曜日の午後は，新しい発見がいっぱいあって，楽しいと感じる

思う・やや思う：40.6%　思わない：31.5%

わからない　　：26.6％

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・いろいろな人の話を聞くことができて良かった

・知らなかったことにふれて視野が広がった　等

3　木曜日の午後のような授業は，高校では必要だと感じる

思う・やや思う：62.2％　思わない：11.9％

わからない　　：25.2％

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・社会のしくみや全体の問題を分かっていない人が多いから　等

4　自分の将来の夢を達成させたり希望する進路に進むためにも，学校の各教科の授業が大切だと感じる

思う・やや思う：67.1％　思わない：14.0％

わからない　　：17.5％

「思う」と回答した生徒の主な記述意見

・「ユーモアは知識から生まれる」に共感できた

・基礎学力はやはり必要だと思った　等

今年度の最大の課題は，「産業社会と人間」と「産業理解」を同一時間帯に設置したことによる生徒自身の棲み分けであった。その点に関しては，結果的に十分とは言えない回答となってしまった。また，木曜日の午後の教科「産業」の時間で，新たな発見があるとは言えないとの回答も多く，学習の趣旨を明確にして，もう少しゆとりを持った展開が必要ではないかと思われる。

ただ，「木曜日の午後のような授業は，高校で必要だと感じる」生徒が多かったことは，普通科の高等学校ではない取り組みに対して，生徒自身が前向きに考えていることになる。これらの授業を通して「学校の各教科の授業が大切だと思う」生徒が多いことは，教科「産業」の授業の成果が，今後の高校生活で現れることを示唆していると思われる。

引用文献・参考文献

1　高等学校教育の改革の推進に関する会議(1993)『高等学校教育の改革の推進について(第四次報告)』

2　筑波大学附属坂戸高等学校(2001)『平成12年度　研究開発実施報告書(第１年次)』

3　筑波大学附属坂戸高等学校(2002)『平成13年度　研究開発実施報告書(第２年次)』

4　筑波大学附属坂戸高等学校(2003)『平成14年度　研究開発実施報告書(第３年次)』

5　筑波大学附属坂戸高等学校(2001)『「総合学科」を創る－生き生きと伸び伸びと学ぶ喜びを－』（学事出版)

6　服部次郎編著(2003)『産業社会と人間　よりよき高校生活のために』(学事出版)

7　筑波大学附属坂戸高等学校(2000)「研究開発概要(１)」『筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要第38集』pp3-8

8　拙著(2001)「研究開発概要(２)－教科「産業」と教養教育」.『筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要第39集』pp1-10

9　拙著(2003)「研究開発概要(３)－新科目「産業理解」の開発」.『筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要第40集』pp1-12

10　筑波大学附属坂戸高等学校(2003)『第６回　総合学科研究大会　資料集』

11　筑波大学附属坂戸高等学校(2004)『第７回　総合学科研究大会　資料集』

12　拙著(2002)「『生きる力』の具現化を目指して －筑波大学附属坂戸高等学校の実践－」.『月刊高校教育１月号』(学事出版).pp. 48-51

13　拙著(2002)「『生きる力』の具現化－「高校教育」の新しい方向性」.『日本高校教育学会年報第９号』.pp. 1-14

14　服部次郎（2002）「『産業』をコアにした高校カリキュラム改革」.小島弘道編『特色ある学校づくりと高校教育課程の編成』（学事出版）pp. 86-92

資料

表1　平成15年度「産業社会と人間」年間計画

月	単　　元	項　　目
4月～6月	自分を理解しよう	1．コミュニケーションキャンプ 2．コミュニケーションキャンプの振り返り 3．福祉講話・福祉体験学習 4．菜園体験学習 5．体験学習の振り返り 6．附属養護学校との交流会 7．交流会の振り返り 8．科目選択予備調査
7月～8月	働くことや学ぶことの意味を考えよう	1．働くことについて 2．社会人講話 3．職場実習（夏季休業中） 4．職場実習振り返り（登校日）
9月～12月	自分の進路について考え，筑坂での履修計画を立てよう	1．筑波大学オリエンテーション 2．筑波大学農林学系教授による出前講義 3．筑波大学訪問 4．振り返り 5．教育課程ガイダンス 6．科目選択・時間割作成
1月～3月	ライフプランを作ろう	1．時間割発表会 2．ライフプラン作成 3．「産業社会と人間」のまとめ 4．「産業社会と人間」発表会

表2　平成15年度「産業理解」年間計画

月	単　　元	項　　目
5月～9月	産業を学ぶ	1．オリエンテーション 2．産業のあゆみ①② 3．産業と経済　証券について・保険について・東証・日銀訪問（夏季休業中） 4．産業のしくみ　地域産業・地域活動（夏季休業中）・地域活動発表 5．産業のしくみ・産業と企業①②
10月～12月	産業を探る	1．情報化社会と産業①② 2．環境と産業①② 3．国際化時代と産業①② 4．福祉と産業①②
1月～2月	産業を考える	1．生活者と産業①② 2．これからの産業社会 3．「産業理解」のまとめ

表３　平成15年度　教科「産業」年間授業内容

月	日	科　目	項　目	内　容	担当(支援)者
4	10 ～ 12	産業社会と人間	コミュニケーションキャンプ	・副校長によるオリエンテーション ・自分を見つめてみよう　・自分史をつくろう ・自分の「性格的特徴」と「行動的特徴」 ・これまでの経験に関する講話 （黒姫ライジングサンホテル佐藤洋一先生担当）	阪本・岡 建元・深澤
	17	産業社会と人間	コミキャン振り返り 菜園作りの準備	・「自分史」の完成　・友だちから見た自分 ・なぜ高校に進学したか ・コミュキャンで考えたこと　・菜園作りの準備	阪本・建元・大森
5	1	産業社会と人間	福祉講話 菜園体験オリエンテーション	・障害者施設「元気な亀さん」所長　瀧本信吉先生による講話 ：障害者や高齢者に関して，福祉問題，ボランティアに関して ・菜園作りのオリエンテーション	建元・大森・深澤・杉村
	8	産業社会と人間	福祉体験学習 菜園体験学習	・視覚障害の松嶋文雄先生の講演（Ａ・Ｂ組） ・肢体不自由の両角哲夫先生の講演と車椅子体験（Ｂ・Ｄ組） ・菜園実習：畑の区割り作業，畑つくり，苗の定植，灌水，片づけ	深澤・杉村・建元・大森
	15	産業社会と人間	体験学習の振り返り	・福祉体験，菜園作りを通して感じたことを班で感想を話し合い，感じたことをまとめる	深澤・建元・大森・杉村
		産業理解	オリエンテーション	・職業について，現代について ・産業理解とは何か，どう学ぶのか ・産業理解の学習計画について	青木
	22	産業理解	産業のあゆみ （発明発見による産業の変化①）	・班を「UTS 銀行」「坂高乳業」「筑波電機産業」「若葉組」「SST マート」「黎明薬」「筑坂自動車」「UTDI」に割り当てる（以下，「産業理解」の班活動はこの想定企業で行う） ・各社が歴史や我が国の産業界に果たす役割，50年後などについての話合い ・産業革命について講義 ・各社の歴史や我が国の産業界に果たす役割，50年後などについての調査	竹内
	29	産業理解	産業のあゆみ （発明発見による産業の変化②）	・調査したことまとめて，発表の資料作り ・各社（業界）の発表（歴史，役割，将来等）および発表に対する評価活動	竹内
6	5	産業社会と人間	交流会準備	Ａ組　交流会の概要説明・よさこいソーラン練習 Ｂ・Ｄ組　交流会の概要説明・歌やダンスの練習 Ｃ組　福祉作業所の概要説明・スポーツ準備	岡・杉村・青木
	11	産業社会と人間	交流会	Ｃ組　坂戸福祉作業所とのスポーツ交流 ４時限終了後昼食・移動・スポーツ交流	深澤・杉村
	12	産業社会と人間	交流会	Ｂ・Ｄ組　桐が丘養護学校来校 駅への出迎えと学校までの案内・全体会１・実習体験・全体会２・解散（駅まで見送り） ※７限は振り替え授業 Ａ組　科目選択予備調査 Ｃ組　交流会振り返り，科目選択予備調査	岡・加藤・建元・大森・初谷 阪本・川上 深澤・杉村

月	日	科　目	項　目	内　容	担当(支援)者
	17	産業社会と人間	交流会	A組　大塚養護学校訪問 後楽園駅集合・大塚養護学校訪問・作業学習の参観・交流会	阪本・川上・岡
	19	産業社会と人間	交流会振り返り	A組　5，6限振替授業，7限　交流会振り返り B・D組　交流会振り返り，科目選択予備調査 C組　振替授業（総合的な学習の時間）	岡・杉村・青木
	26	産業理解	産業と経済 （証券のしくみ）	・NPO法人「投資と学習を普及・推進する会」証券カウンセラーによる講演 ・ビデオ「銀行探偵団」視聴	吉備
7	3	産業理解	産業と経済 （保険のしくみ）	・仮想生活ゲーム「30年後のライフプランを考えてみよう」実施 ：損害保険や生命保険と生活の関わりについてのシミュレーションゲーム ・ビデオ「くらしと損害保険」視聴	吉備
	11	産業理解	産業のしくみ （地域調査）	・埼玉県の特徴や地域を知ることの意義等について ・生徒の居住する地域に分かれて地域調査の計画	大平
	17	産業社会と人間	働くことについて考えよう	・教科書をもとに，働くことの意義や職業選択，職業の3要素等についての学習 ・社会人講師の先生による「働くこと」の意味や体験談，各事業所の説明等についての講話	青木・阪本・大森
		産業社会と人間	職場実習	21日：1事業所（4名）　22日：3事業所（24名） 23日：6事業所（45名）　24日：4事業所（21名） 25日：7事業所（39名）　26日：1事業所（8名） 28日：1事業所（4名）　29日：1事業所（5名） 30日：1事業所（5名）　31日：1事業所（5名）	青木・阪本・大森
		産業理解	地域調査活動	生徒の居住する市町村での調査活動 埼玉県（20市・11町・2村） 東京都（3区・2市） 栃木県（1市・1町）	大平
8	22	産業社会と人間 産業理解	職場実習振り返り 地域調査 東証・日銀訪問	・講師の先生へのお礼状 ・地域調査発表会の要項について ・東証・日銀訪問のオリエンテーション	青木ほか 大平 吉備
	29	産業理解	産業と経済 （東証・日銀訪問）	・A・B組　日本銀行西門前集合（12：30） 見学・移動・東京証券取引所見学 ・C・D組　東京証券取引所西口集合（12：30） 見学・移動・日本銀行見学	吉備
9	4	産業理解	産業のしくみ （地域の産業）	・地域調査発表会：12地域ずつに4グループに分け，それぞれの調査結果の発表と評価	大平
	11	産業理解	産業のしくみ （産業と企業）	・職業分類について：職業分類についての認識を深める ・求人票について：実際の求人票に盛り込まれた情報等について認識を深める ・仮想企業のプルフィール作り：実際の企業のHPを検索し，想定した企業のプロフィール作り	大平

月	日	科　目	項　目	内　容	担当(支援)者
9	18		産業のしくみ （産業と企業）	・各仮想企業の企業説明用のポスター制作 ・各仮想企業の求人説明会と評価	大平
	25	産業社会と人間	筑波大学オリエンテーション	・筑波大学についての全体講話（校長） ・筑波大学広報ビデオ視聴 ・筑波大学農林学系の先生方の講義 A組・砂坂元幸教授　B組・永木正和教授 C組・西村繁夫教授　D組・横尾政雄教授 ・筑波大学訪問オリエンテーション	深澤・建元・川上
10	2	産業社会と人間	筑波大学訪問	・学校集合，点呼，バスで移動，筑波大学到着 ・佐藤常雄前校長の講話 ・卒業生（石田くん，小野さん，根本さん）の話し， ・昼食 ・班別研修：生物資源・環境コース（20名）バイオコース（11名）体育コース（13名）英語・留学コース（10名）・情報コース（13名）心理学コース（15名）社会工学コース（７名）工学コース（13名）図書館コース（10名）学内探訪コース（48名） ・筑波波大学出発，学校到着	深澤・建元・川上
	9	産業社会と人間	筑波大学訪問の振り返り	・筑波大学訪問についてのタブロイド判の新聞作成 ・見学に関するアンケート作成 ・菜園体験（芋掘り）	深澤・建元・川上
	16	産業理解	情報化社会と産業 （情報化社会の功罪 情報機器と産業） －ＢＣＤ組	・情報化社会の功罪についての問題提起 ・ディベートについて ・ディベートテーマに関する情報検索 ・パソコンを解体して内部構造からの技術の発達と部品の製造国の理解	工藤
			ガラス産業から見る環境と未来①　－Ａ組	・ガラス産業協会の社会人講師の講義 ・ガラス産業の過去・現在・未来についての講義	NHK ソフトウェア
	23	産業理解	情報化社会と産業 （情報化社会の功罪 情報機器と産業） －ＢＣＤ組	・情報化社会の功罪についてのディベート（生産者と消費者） ・電子商取引ソフト（スクールショッパー）を活用した仮想電子商取引実習	工藤
			ガラス産業から見る環境と未来②　－Ａ組	・日本山村硝子株式会社東京工場見学(バスを使用)	NHK ソフトウェア
	30	産業理解	環境と産業 （環境負荷低減の努力）　－ＢＣＤ組	・環境問題についての概論 ・自動車のエンジンと排気ガスについて ・マスキー法について　　・排気ガス測定 ・「世界を変えた一台の車」	深澤
			ガラス産業から見る環境と未来③　－Ａ組	・未来のガラスと各産業との関わりについての調査	NHK ソフトウェア
11	6	産業理解	環境と産業 （環境負荷低減の努力）　－ＢＣＤ組	・これからの産業と環境問題についての講話 早稲田大学教授　円城寺守先生	深澤
			ガラス産業から見る環境と未来④　－Ａ組	・未来のガラスと各産業との関わりについての各班（各社）の発表	NHK ソフトウェア

月	日	科　目	項　目	内　容	担当(支援)者
11	13	産業理解	国際化時代と産業 （国際化時代を考える）	・今までの産業理解の授業と国際化の関係 ・「物」「金」「人」「技術」「情報」の国際化の現状 ・各班（各社）の国際化時代への対応についてＫＪ法による課題の整理	市川
	20		国際化時代と産業 （国際化時代を考える）	・国際化時代のキーワードについて ・各社会議：各班（各社）のＫＪ法による「国際社会の中の我が社」についての討議	市川
12	4	産業社会と人間	科目選択・時間割作成	・２，３年次時間割の入力 （科目選択の指導はホームルーム活動で実施） ・教科「産業」に関する調査	深澤・建元・加藤
	11	産業理解	福祉と産業 （本当のバリアフリーってなんだろう）	・福祉とは？　・産社の交流会で感じたこと ・福祉の現状についての認識 ・ビデオ「ダンスよ心を語れ」視聴	小林
	18	産業理解	福祉と産業 （産業界での取り組みを知る）	・企業側からの取り組み フジテレビ商品研究所　相楽和彦先生による講話 ・行政側からの取り組み 坂戸市福祉総務課　佐藤達人先生による講話	小林
1	8	産業理解	時間割発表会	・自分のための時間割について，その意図や目的等の発表	深澤・建元・加藤
	22	産業理解	生活者と産業 （生活者が創る産業）	・消費者トラブルの実際と消費者保護団体や法令等 ・「食の安全性」に関するビデオ視聴	後藤
	29	産業理解	生活者と産業 （生活者が創る産業）	・保護者に対する聞き取り調査（生活者から見た現代）の結果の集計 ・生活者側からの産業の創造についてのまとめ	後藤
2	5	産業理解	これからの産業社会	・１年間学んだこと，今感じていること，この授業の意味を考え直す ・「これからの産業社会」についての講義 ・授業のまとめの記入	青木
	19	産業社会と人間	ライフプランの作成	・「私のライフプラン」をテーマに将来設計を立てる. ・「私のライフプラン」をテーマに作文を書く	阪本・岡・青木
	26	産業社会と人間	ライフプランの発表	・「産業社会と人間」「産業理解」の学習について意見をまとめる	阪本・岡・青木
3	4	産業社会と人間	「産業社会と人間」のまとめ	・１年間学んだこと，今感じていること，この授業の意味を考え直す ・これからの各自の在り方についてについての講義 ・授業のまとめの記入	阪本・岡・青木
	17	産業社会と人間	「産業社会と人間発表会」準備	・「産業社会と人間発表会」の準備及びリハーサル	阪本・岡・青木
	18	産業社会と人間	「産業社会と人間発表会」	・教育関係者や社会人講師を招いた発表会の開催	阪本・岡・青木

※産業社会と人間と産業理解は，時間割上は３時間であり，長期休業中の活動を含めて各２単位認定している。